

薬害根絶デーに参加して



『薬害とは』

薬害の定義は決まっています。が、「医薬品の有害性に関する情報を、加害者側が（故意にせよ過失にせよ）軽視・無視した結果、社会的に引き起こされる人災的な健康被害」という考え方が一般的です。つまり薬害とは有害な作用を軽視・無視した医薬品の不適切な使用の結果、多くの人が重大な健康被害を受け社会問題化し、社会的要因が加わる有害な結果と考えられます。

『薬害根絶デーとは』

1999年8月24日、厚生省（現：厚生労働省）の前庭に、「薬害根絶 誓いの碑」が建立され、サリドマイド・スモン・薬害エイズなどの悲惨な薬害を引き起こした反省と謝罪がなされました。しかし、今なお新たな薬害が生み出され、適切な救済がなされぬまま、

誓いの碑

命の尊さを心に刻みサリドマイド、スモン、HIV感染のような医薬品による悲惨な被害を再び発生させることのないよう医薬品の安全性・有効性の確保に最善の努力を重ねていくことをここに銘記する

千数百名もの感染者を出した「薬害エイズ」事件
このような事件の発生を反省し
この碑を建立した

平成11年8月 厚生省

被害と闘う毎日が続いています。

薬被害連（全国薬害被害者団体連絡協議会）では、薬害の根絶と被害者救済を願い、毎年この日に「誓いの誓い」を中心に厚生労働省交渉・文部科学省交渉・リレートークなど、一連の薬害根絶行動を行っています。

『最近の薬害状況』

最近の薬害として、子宮頸がんワクチン（HPVワクチン）があります。子宮頸がんワクチンは、ウイルス感染を防ぐことで、子宮頸がん予防をめざしたものです。

有効性と安全性の評価が十分でなかったのに導入を急ぎ、2010年からは公費で10代の少女たちへ一斉に接種しました。その為健康被害が相次ぎ、2013年に接種の積極的勧奨は中止されました。現在、新たな接種者はほとんどいませんが、推定339万人の接種者のうち2906人に副反応が発生、うち1572人には重篤な障害をのこしています。全身の痛み・震え・脱力・歩行困難・感覚過敏・無月経・記憶障害など様々な症状が重なり、今でも苦しんでいる少女たちがいます。国と製薬企業が責任を認めないため、被害者は原因説明・賠償・再発防止を求めて、2016年7月から、東京・名古屋・大阪・福岡で裁判を続けています。



『薬害をなくすために』

新たな薬害を防ぐために、国と企業の安全対策を監視する第三者組織の創設が必要です。なぜなら薬害エイズ事件の後も、薬害肝炎が起きました。製薬企業は感染の危険を知らながらC型肝炎ウイルスに汚染された血液製剤を販売し、国も黙認しました。

薬害イレッサでも治験で発生した副作用死が軽視され、申請から5か月という早さで承認されましたが、臨床での副作用死が多発しました。薬害イレッサでは専門医集団と厚生省の関連を疑わせる動きもありました。日本肺がん学会が「承認後の結果から、承認前や承認直後の責任を問うのは慎重に」という声明を出しましたが、この下書きは厚生省が作成したと言われています。被害の実態を知り、被害者の運動を支援することで世論を盛り上げ、監視組織をつくるのが大切です。

『薬害根絶デーに参加しての感想』

学習講演「HPVワクチン薬害訴訟」を拝聴し、今まで風邪をひいたことくらいしかない健康な少女がHPVワクチン（子宮頸がんワクチン）を接種しただけで通学もできないような副反応が起こり明日に希望が持てないという状況に心が痛みました。海外においても被害が報告されているにもかかわらず、国と製薬会社は責任を認めず被害者の救済がなされていない現状に歯がゆさを感じます。真の救済（被害回復）と再発防止のために裁判において責任が明確化されることを願います。

今回、薬害根絶デーに参加して感じたことは、残念ながら薬害は過去のことではなく新しく更新されているということです。体に良いはずの薬が恐ろしい被害をもたらしたことを知り、このようなことが二度と起きないように国と企業の安全対策を監視する組織ができることが必要だと感じました。

（杉山）

参考：全国薬害被害者連絡協議会、薬害根絶デー実行委員会、全日本民主医療機関連合会 各HP



秋に猛威を振るう食中毒。じつは普段の何気ない行動に落とし穴が潜んでいるかもしれない。さらに、家の中に潜む危険スポットをご紹介します！

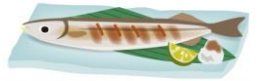
■『腐る』と『食中毒』は違う？

腐ったものを食べるから食中毒になると思われがちですが、腐ったものを食べても食中毒の原因にはなりません。食品を腐らせるのは腐敗菌であって、食中毒菌とは別のモノであると考えてください。腐敗菌は臭いや粘りを発生させますが、食中毒の原因となる細菌やウイルスには発生しません。食中毒の原因は見た目や臭いではわからないということ。知らず知らずのうちに、食中毒の原因を口にしてしまうことのないように注意が必要です。

■食中毒を予防しよう！

《買い物時の注意》

スーパーでの買い物の際は、魚や肉は細菌が増えやすいので、最後に買い物カゴに入れるのをお勧めします。また、食材をすぐに使うからといって、魚や肉などをキッチンに置いたままにしないようにしましょう。魚に付くことの多い腸炎ビブリオという食中



食中毒で一番注意が必要な季節、秋

毒菌は増殖スピードがとて速く、常温では10分間で倍に増殖します。もし魚にこの菌が10個いた場合、常温で2時間放置してしまえば2万個以上になってしまう。

《調理中の注意》

肉類を触った手を石鹸で20秒間しっかりと洗った場合と、水のみで5秒間サッと洗った場合で細菌がどのくらい手に残っているかを調べてみます。石鹸で洗った場合はほとんど細菌がいなくなりますが、水のみの場合だとかなりの細菌が残っています。

更に、注意しないとイケないのが、調理の順序です。時間がかかる煮物を先に、サツとできるサラダは後に作りがちですが、その作り順が危険です。市販されている肉類の50%に付着しているといわれるカンピロバ

クター菌は、気温が高いと死滅しやすく、秋頃の涼しくなった頃に、また元気になって食中毒を起こします。このカンピロバクター菌から身を守るためには、しっかりと加熱することや、まな板や包丁を肉用とサラダ用に分ける等で予防しましょう。

《冷蔵庫の注意》

冷蔵庫がいつぱいだと、冷気の通りが悪くなり温度が上がります。菌の繁殖を防ぐという点では、5度以下に保つことが望ましいとされています。冷蔵庫の中には、容量の7割程度にとどめておくのが、良いでしょう。

《その他の対策》

台ふきんは、使ったら煮沸消毒をして、しっかりと乾かす事が大事です。また、台ふきんはキッチン用とダイニング用に分けるようにしましょう。

★全ての細菌が悪いわけではなく、神経質に殺菌し過ぎていけると、かえって抵抗力が弱くなる、というようなことでもあります。食中毒を起こす菌について、よく知って対応する事が重要です。



サイト「健康でいるための情報集め。」より (伊平)

がんを知り、がん向き合い、 がんに負けることのない社会 の実現のために・・・

★夜通し歩くリレーイベント「リレー・フォー・ライフ」をご紹介します。

リレー・フォー・ライフとは、1985年にアメリカ人医師が「がんに立ち向かう患者さんの勇気を称え、励ましたい」という想いと、「がんは24時間眠らない」「がん患者は24時間と闘っている」というメッセージを伝えるために大学のグラウンドを24時間走り通したことからスタートしたチャリティ・イベントです。

現在では世界20ヶ国、全米5500ヶ所で開催されています。昨年度は日本全国49カ所・約8万人が集まりました。群馬県でも今年5回目の開催が予定されています。

日時：平成29年10月7日(土)～8日(日)
場所：ぐんま総合スポーツセンター

イベントの目的は患者・家族・支援者を称え支えること、亡くなった人たちの追悼、がんの啓発活動、そして募金活動です。がん患者の思いやがん患者を支える人たちの思いを感じ、学ぶことができます。地域社会全体でがんについて考える契機になっています。私たちもまずは『一歩』。一緒に考える機会にしてみたいかがでしょうか。



(一之瀬)

編集後記

最近「90歳何がめでたい」という書籍が90万部を突破した。高齢者の放言に世間さまは拍手喝采で、ネットでの発言ならとくに炎上しそうな内容もアナログの書籍ではそうはならないのか。

世の中の高齢者はそう簡単ではないようで、孤独や貧困、医療・介護・年金問題のなかでもがいている状況です。「この国はなんと高齢者に冷たい仕打ちするのか」と悲鳴が聞こえてきそうです。物言えぬ高齢者の代わりに声ならぬ声を届ける役割は誰が担うのでしょうか？

解散、総選挙となればしっかりと見定めて貴重な権利を行使しましょう。放言だけでは世は変わらない、行動しなければ。

(島田)

